

グローバルマネジメント学部 教員予定者 プロフィール

1 氏名（ふりがな）

臼井 則生（うすい のりお）氏

2 生年・出生地 1964年・長野県千曲市（旧戸倉町）

3 所属・職名 アジア開発銀行 上席エコノミスト（在マニラ）

4 専門・研究分野 開発経済学

5 学歴

長野県屋代高等学校卒業、東京大学卒業、同大学院農学生命科学研究科修士課程修了、同博士課程中退、ハーバード大学ケネディー・スクール エクゼクティブ・トレーニング修了。博士（農学）。

6 職歴

株式会社大和証券（大和総研）エコノミスト、静岡県立大学国際関係学部助手、千葉大学園芸学部助教授、関西大学経済学部助教授、アジア開発銀行エコノミストを経て現職。

7 社会活動歴等

インドネシア政府政策アドバイザー（在ジャカルタ）、外務省インドネシア国別援助計画策定委員会アドバイザー、国際協力銀行インドネシア地方分権研究チームリーダーほか。

8 著書・論文

著書として *Tax Reforms toward Fiscal Consolidation: Policy Options for the Philippine Government*, 2011; *Taking the Right Road to Inclusive Growth: Industrial Upgrading and Diversification in the Philippines*, 2012 ほか。論文として“Rethinking the Growth Diagnostics Approach: Questions from the Practitioners” 2011; “Why has China succeeded? And Why it will continue to do so” 2013 ほか。

9 担当授業科目（予定）

グローバル経済論、経済学入門Ⅱ、ミクロ経済学、マクロ経済学など

10 メッセージ

隔離されたムラ社会のなかで、昔は通用していた慣例、権威、制度にしがみつき、誰が相対的に有利になるかを身内で競う。閉ざされた競争だから、賈物でも大丈夫。組織の調和がいつも大切だから、誰も本当のことは語らない。改革なんて騒いでみても、所詮は見掛け倒し。本気で変える気はない。何の話か分る？

英語が使える？明治維新の日本じゃあるまいし。高度な教育を受け、新しい専門性を持った人材は国境を越えて移動。そうした人材を送り出す大学は熾烈に競争。ムラ人には見えないし、見たら惨めだ。静かに“Somewheres”として暮らすか、どこにいても“Anywheres”としてグローバルに生きるか、選択は個人の自由。ただ学ばない人には選択権は与えられない。もし僕が今18歳なら、ひたすら学びますね。間違いなく。

